

第5回瑞浪市道の駅検討委員会

<議事要旨>

日時：令和5年1月13日（金）午後1時～

場所：瑞浪市役所 4階全員協議会室

出席委員：原田守啓、水野正、東恵理子、足立弘文、足立美樹、遠藤俊哉、加藤博一、
小島博和、出村嘉史、水野吉衛、溝口純司、山田好彦、（敬称略）

欠席委員：小木曾 実希、滝本 一司 （敬称略）

アドバイザー：東濃県事務所長 尾関新太郎

多治見土木事務所長 小野弘康（欠席）（敬称略）

オブザーバー：国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所

計画課長 丸山 保昭（敬称略）

事務局：瑞浪市 建設部 都市計画課

■会議概要

1. 開会

2. 会長あいさつ

会 長 瑞浪市道の駅基本計画について、取りまとめの段階を迎えました。私たちがどれくらいの時間を掛けて議論してきたかと振り返ると、基本構想では、釜戸や大湫、その周辺地域を含めて地域の魅力を発掘するという点を丁寧に議論し、2019年8月に基本構想が策定されました。コロナのパンデミック前から基本計画の策定に着手し、基本計画策定までの流れを振り返ると、アフターコロナを見通していたかのような計画になっていると思います。改めて、この地域の未来に繋がる、瑞浪の未来に繋がる計画になっていることを実感しています。9月の検討委員会では、基本計画（案）について、いくつか重要なご意見が出ました。また、瑞浪市だけで行う事業ではなく、道路事業者や河川管理者あるいは市民の色々な意見の中で進めていく事業となります。今日は、できる限り皆さんから意見をいただいて、最終の取りまとめを行いたいと思います。是非、忌憚のない前向きなご議論をお願いします。

- ・傍聴希望者を確認・承認（傍聴人5名）
- ・議事録署名者の選定（加藤博一委員、山田好彦委員）

3. 議事

会 長 次第3の議事について進めていきます。質問や意見については適宜時間を設けますので、その際によりしくお願いします。では、本日のメインの議題であります、瑞浪市道の駅基本計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

(1) 瑞浪市道の駅基本計画（案）について

・事務局より、資料1の第1章から第4章までの説明

会 長 9月に開催した第4回検討委員会では、道の駅は釜戸町で計画されているが、瑞浪市としてどういう位置づけなのか、という点を市民の皆さんに理解いただけるように再整理すべきとのご意見がありました。基本構想から丁寧に時間を掛けて議論してきたという経緯もありますので、背景や議論の進展の経過を分かり易くすることを中心に再整理していただいています。導入機能などに関しても、この計画が文字として独り歩きするという部分もありますので、後々課題となることについては、丁寧に気を配って修正いただいていると思っております。皆さんが読み込むのに時間がかかると思っていますので、ゆっくり始めたいと思います。今ご説明いただいたのは導入機能のところまでということによろしいでしょうか。

事務局 はい、そうです。

会 長 では、目次の1章から4章までの内容につきまして、不明な点の確認や表現に対する修正意見も含めて時間を取りたいと思います。皆さんゆっくり確認していただいてからで結構ですので、ご意見等ありましたら挙手にてお知らせください。この議論に参加していない市民の方が読んだ時に、どう見えるかというところまで気を配っていただけるとありがたいと思います。

会 長 この後にも議論の場があります。目次の1章から4章のところの導入機能まで説明いただきましたが、引き続き、目次の5章の施設整備計画、それから重要なポイントとなりますが、6章の道の駅の整備・運営方針の検討等について、説明を事務局よりお願いします。

・事務局より資料1の第5章から第6章までの説明

会 長 ご説明ありがとうございました。基本計画の記載内容について、全体像を確認

してから議論に移りたいと思います。目次を見ていただくと、6章構成になっております。整備の目的などが第1章、第2章は国の制度を使って進めていくこととなりますので、道の駅という施設についての前提条件の整理や、道路との関係性がまとめられています。第3章が道の駅のコンセプトについて、第4章が具体的な機能をどう備えていくのかという議論になっております。よって、第1章から第4章までは、概ね基本構想で議論したコンセプトや背景に加えて、検討委員会で議論してきた導入機能について取りまとめられています。具体的にどのような場所に配置していくのかというところが第5章であり、道路管理者との調整や河川管理者である岐阜県との調整に関しての取りまとめがなされています。大事なのは第6章となりますが、どういう形で道の駅を運営していくのか、「まちとともに育つ道の駅」というコンセプトを、どのようにして地域の方々も一緒に活躍していただける形で実現するのかという点について、背景となる情報として、この地域でなされていた具体的な議論を踏まえた方向性について示していただいています。第5章、第6章について説明いただきましたが、第1章、第2章に戻っていただいても結構です。この場の議論を通じて修正の意見があれば修正し、計画として取りまとめたいと考えております。是非、活発なご意見、ご議論をいただきたいと思います。

会 長 では、副会長の水野委員、全体を通して、所感や印象で結構ですので発言いただけないでしょうか。

副 会 長 12ページに道の駅第3ステージの記載がありますが、その中に記載されている目指す3つの姿①②③は、今まで議論してきた現計画の計画づくりにも沿っていると感じました。ただ、②の新「防災道の駅」が全国の安心拠点にというところについて、これから当然出てくると思います。地域の防災という部分も当然ありますが、道路利用者という部分の視点も、もう少し取り入れた方が良かったのかなという思いがありました。これから計画を随時見直していく流れになるかと思いますが、そういった点を踏まえて、今後、更に見直しがなされていけば良いのかなと感じました。それから、釜戸にできる道の駅も、どういった財産があるとか、もっと洗い出しながら、もっと色々な事ができるという情報が発信できていけば良いのかなと思いました。

会 長 財産というのは、今まで地域資源と表現していたものと捉えれば良いですか。

副 会 長 はい、そうです。

会 長 地域防災の拠点だけでなく、道路利用者に対しての防災機能など、非常に重要な視点だと思います。国も、おそらくそういった議論があれば、より応援していただき易いのではないかと思います。出村先生もご覧になっていただいて、いかがでしょうか。

出村委員 長い時間を掛けただけあって、非常によくできていると私は思っています。すごくシンプルですけど、ここまで念入りに考えて書いているのが、他にあるのかなと思います。皆が知っている道の駅システムについて、全然違う見方を示してみたり、施設の中の話だけではなく、例えば2ページに新しく加わった瑞浪市の地図の中で、どういう位置付けにあるのかを端的に示している点など。できたら本当は東濃の中でどういう位置付けなのかというのがあると、より個性が出るのかとは思いますが。出発点として、このような視野の広げ方をして、そこを結んでいく拠点であるという示し方をしているというのは大変良いかなと思います。つまり、そこに新しい施設ができます、駐車場ができます、ただ運営しますというのではなく、そこに場所ができるという思いが、ずっと溢れているので、私は大変評価します。

細かいところで言いますと、最後の第6章の管理運営手法のところ、今回、岐阜大学が現地に入って、ワークショップなどをやりながら色々アイデアを耕した点も反映されています。先程のご説明にありましたように、中間組織とか中間人材という考え方 — 後から加えたからこういった書き方なのですが。例えば、27ページの表6-2の中には、それがありません。組合とか民間事業者とかというところに収まらない第3の存在という意味で中間事業者なのです。中間事業者というのは、行政と民間というか住民の間を取り持つ事業者という意味なので、すごく柔らかい存在です。そういう意味で、そこが主体の一部をなすというあり方が良いのではないかと思います。それが臆気にもみえてきているのではないかと私は思っています。表6-2の中で言えば、おそらく民間事業者によるのかなと思って見えています。組合という次元では達成できない、もっと柔らかい動きをするための中間組織というあり方を提言しており、計画の成案を追いかけながら加えていただいたのでこれで精一杯かもしれませんが、また追々この辺についてのコンセプトの深め方というのは追及していかないといけないのかなと思います。実際に実施段階では極めて重要な事になってきますので、その辺りにカギがあるという点を一言申し上げます。

全体としては、今、更にブラッシュアップすべき段階ではないと思いますので、形として非常によくできているなど評価しています。

会 長 この場は議論を尽くすというのが大事だと思いますので、批判的な意見も含

めて、お願いいたします。市民目線で見たと時に、少し気になるかなと思う点を確認という意味で聞きたいと思います。第5章の施設整備計画から第6章にかけて、関係者との協議で変更される可能性のあるものが多く残っています。例えば、22ページでは、河川管理者である岐阜県との間で、河川区域内の整備や維持管理、防災をどのようにしていくのかという点は、今後協議を重ねながら協定等を結んでいく必要があると思います。道路のアクセスや横断歩道の動線については、多治見砂防国道事務所や警察との協議も必要となってきます。24ページの下段の事業費は市民の皆さんが一番気にされる場所だと思います。20～30億円と幅があって、さらに国の補助制度が使えるかどうかというところがグレーな書き方となっているので、これを不安に思われる市民の方が多いのではないのかなと思いました。26ページの道の駅の整備手法について、多治見砂防国道事務所という具体的な協議先が明記されていますが、整備の大枠に関わるということについて、まだ協議を残しているため、現段階で記載できるのはここまでであるという理解でよろしいでしょうか。

事務局 はい、そうです。

会長 もう少し明確に記載できると良いと思う部分がありますが、目一杯協議してここまでということです。ただ、市民の方から、この部分については質問があるかもしれませんので、市として対応をお願いします。

出村先生 28ページの管理運営の視点を4点挙げていただいて、全て納得感はありませんが、4つ目の書き方は、ちょっと注意して、直していただきたいです。インシャルコストをできる限り圧縮するというのは、なんとなく「安かろう」に収めるというような気分になってしまう文言です。むしろ安く抑えてもクオリティはしっかりと保っていただきたいので、協働とか連携とか、なんらかのブレイクスルーをもって、安く抑えることが分かる表現にしていきたいです。ただし、安く抑えますということを正義のように語らないようにしていただきたいです。ただ、内容は確かにこの通りです。インシャルコストを下げてもランニングに圧迫が来ないようにするというのは当然の話ですが、初期の整備を、ここは諦めて、これで行きましょうかみたいな、削減、削減で行くようなイメージを想起させないようにしていただきたいです。

事務局 適正な事業費は確保しながら、しっかりとしたものをつくっていきたいと思っています。単に安くあげるという意味ではありませんので、今後、見直しさせていきたいと思っています。

出村先生 内容は重々承知しております。

会 長 それでは、お一人ずつコメントいただく形で進めていきたいと思えます。計画について議論する機会というのは、おそらくこれが最後になります。これまで2年間、この検討にご参加いただいた皆さんから、これが一つの成果であるということも含めて、ポジティブなコメント、或いはここをもう少し直した方が良いというコメントでも、ご発言いただきたいと思えます。水野委員よろしいでしょうか。

水野(吉) 類 2ページの(1)の上から4番目の丸で、平成28年にきなあ瑞浪が開業となっていますが、平成24年となります。もう1点は、管理運営について、最後はそこに行きついてしまいますので、少しぼやけ過ぎかなというように考えて見えています。運営には相当な経費が掛かってしまいますので、その点を考えると書き方も難しいと思うし、運営ができる適正な方がやればよいということも無責任な感じもしますし、その点は少し考える必要があると思えます。自分としても上手く表現できませんが、一番懸念されているのはその点なのかなというのが率直な意見です。

会 長 事務局から今の水野委員の意見に対して何かありますか。

事 務 局 管理運営主体の検討については、令和5年度以降になりますが、道の駅の運営手法あるいは運営主体について、民間事業者から広く意見、提案を求めるサウンディング調査を実施する予定です。サウンディング市場調査というのは、事業検討の段階で民間事業者との対話を通じて、道の駅に関する利活用の方向性や市場性の有無とか、市場性を高めるアイデア等を把握することを目的に実施します。水野委員のご指摘については、様々な可能性を探るという意味合いで、そのように書いているという意図もあります。運営手法・運営主体というのは、これから非常に重要となってきますので、来年度以降のサウンディング調査も含めまして、その辺りはしっかりと適切な管理運営手法と運営主体の選定に取り組んでいきたいと考えております。

会 長 東委員は、いかがでしょうか。

東 委 員 令和5年度から運営主体の選定などが始まるということで、どんな事業者が手を挙げてくるのかは、計画の内容から、私たちにできる、できないってことが決まってくると思えます。想像するに、色々な可能性があると思えます。

ましたが、計画を見ると、どうしてもアクティビティ寄りであると思います。民間でできることがアクティビティになっているので、アウトドアアクティビティの業者は手を挙げるとは思います、それで良いのかなというのがあります。もしくは全体をプロデュースできるまちづくりをやっていく会社なのかなとも思いますが、詳細として本当に良いのかなと思、その辺りが気になりました。

事務局 確かに、地域の潜在力を最大限に活かすために、アウトドアアクティビティというのを前面に押し出しています。やはり、道の駅というのは、そこに来ていただいて、物を買っていただいたり、今回は、よろずやということで地域にも開かれるイメージとなります。飲食等も含めた機能に関して、サウンディング調査を行い、どういう形で運営をいただけるのか、そもそも可能なかどうか、その辺りも調査の中で把握していきたいと思、います。

東委員 感じたことですが、まちづくりですとか、よろずやですとか、多様なとか、町民がやるみたいな言葉が、何かぼやけ過ぎてしまっている気がして、丸投げ感というか、そこはどうやって進めるのか、推測なき調査は得られるものが多いのかなみたいな、そういう懸念もあります。もっと地域資源との親和性、そういうところを考えられる事業者が来てくださったら良いのかなと、個人的には感じました。

事務局 基本計画をもとにサウンディング調査を行います。その内容については、基本計画を基本としながら、もう少し内容を明確にしたうえで調査をして、運営主体等のご意見を聞きながら、提出された意見等も踏まえて道の駅の導入機能等の見直しということも起こりうると思、います。ご指摘ご意見等を、しっかりと踏まえた形で次のステップ等に進んでいきたいと思、いますので、よろしく願、いいたします。

会 長 水野委員、東委員からいただいたご指摘は非常に重要であり、実際にものを動かしていく上で、一番気になっているところだと思、います。後程、時間をとって議論をしたいと思、います。次、足立委員願、いします。

埴(美)委員 私の意見としては、こういう道の駅だったら良いなということで話をさせていただけます。釜戸町の道の駅というよりも瑞浪市として、瑞浪の素敵な道の駅という形で、もっと大きな視点で見たいと思、います。きなあつた瑞浪では、私もイベント等でお世話になっており、ポーノパークとか農産物とか、

本当にお客さんがすごく来られます。例えば、釜戸町にできる道の駅、最初は農産物がちょっと仕入れられないというような感じがありますので、きなあつと瑞浪とも連携して、釜戸だったらクラフトビールがあるとか、移住して来られる芸術家の方々の作品を取り入れつつ、ビールの器ですとか、私事です、しめ縄とか作っておりますので、そういう芸術クラフト系や陶芸、温泉もあります。それを、ウィナーとビールを掛け合わせたり、いろいろな方法できなあつと瑞浪とも連携できると思います。今まで、釜戸の道の駅という感じが凄く強くて、そうすると釜戸の中って考えるよりも、瑞浪市全体としてある資源と釜戸にある資源の両方を活かせるようにして、釜戸は釜戸として白狐ですとか伝説のある河童とか、竜吟とかを入れつつ、自然という釜戸の良さを取り入れてやれたら良いなと思います。

事務局 前回、その点についてご指摘いただきました。今回、追加で市全域の図を掲載し、市内各地域に地域資源がありますので、そういったものと連携する形を目指します。また、きなあつと瑞浪との連携、それ以外の施設もそうですけれど、各施設とも連携しながら一つの拠点として、市全域に波及効果が生まれるような取り組みをしっかりとした形で進めていきたいと思っています。

会長 確かに、足立委員がご指摘いただいたように、瑞浪を売り出すという観点は、後半の方には出てこないかもしれないです。最初に、瑞浪市域とか東濃の中でこの場所の位置付けというのはあると思いますが、やはり釜戸を売り出す前に瑞浪市にあるものを売り出すように考えると、未だ盛り込む余地はあるのかなと思います。それでは、溝口委員、いかがでしょうか。

溝口委員 今年のお正月に釜戸町で元旦マラソンがありまして、そこに参加させてもらった時に、道の駅ができる周辺がコースになっていました。マラソンに参加された地元の住民は、道路が通る辺りは立ち退きで家が壊されていたりとか、道路工事もだんだん進んできているので、少しずつ本当に道路が通るのだなというのを実感しています。道路がいつ開通するのかとか、道の駅ができるという噂はあるけど、いつできるのだろう、まだ少し先だろうから自分たちは関係ないというような声を聞いたので、やはり、一番気にされているのはスケジュールだと思います。地元の方も漠然としていて、噂はあるけれど本当にできるのかという話もあったので、道路の開通も未定ということで難しいですけど、地元の方はスケジュール感を凄く気にされていると感じました。これをどう示すのかは難しいと思いますが、これがみえてくると、関わり方とか期待が出てくるのかなと思いました。

会 長 今回の計画には、何処にどういったものを等、かなり具体的に示されます。これが遠からず市民の皆さんが確認できる状態になった時に、そこから気分の盛り上がり期待できると捉えれば良いですか。

溝口委員 はい、これで本当に進んでいるのだなっていうのが分かってもらえるのかなっていうのはあります。

会 長 内容的には気になる点はありませんか。

溝口委員 はい、ないです。

会 長 ありがとうございます。足立委員お願いいたします。

足立(弘)委員 前回のお話の中で出ていた、2ページで、きちっとした計画地の関連、新しいものを入れていただいたということが、すごく市全体のものであるっていうことが皆さんにも伝わると思います。一つ私が思うことは、防災の拠点ということが将来的に入ってくるということであれば、道路についてそこに繋がる県道66号線であるとか、そういうところとの関わりもでてくると思うので、きちっとした防災拠点として道路も位置付けられた方が良いのではないのかなと感じました。二つ目としては、18ページに出てきている、「まちとともに育つ道の駅」の導入機能の賑わいのところで、既存資源の活用にはグランピング等の施設とありますが、先程の話で行くと、アウトドアアクティビティという表現の方が、整合性が取れているのではないかと思います。統一された表現で示された方が良いのではないかと思います。いかかでしょうか。

会 長 今の2点のご意見について、事務局の方からお願いいたします。

事務局 防災につきましては、道の駅の第3ステージということで、国も道の駅を防災の拠点とすることを目指しているのです、やはり防災の考え方というのは、しっかりと持って進めていきたいと思っています。18ページのグランピングという文言については、先程のお話の中でグランピングという言葉はアクティビティという言葉に変えましたとご説明いたしましたが、18ページについては敢えてグランピングという表現にしております。考え方としましては、19ページで導入機能の整理をしております。18ページは導入機能の整理前の想定される導入機能を記載しているので、グランピングという一つの考え方という意味合いで敢えて変えていません。分かりにくいということであれば、ここも大

きくアクティビティ施設という言葉に修正することも可能です。

会 長 そもそもグランピングが、施設という位置付けになるのか、ならないのかという話がありました。野外にグランピング等が可能な良い場所があるということで、固定された施設を造るというイメージで読まれないよう修正した方が良いかもしれません。

事務局 文言を整理させていただきます。防災道の駅の防災機能ですが、当然、新しい道の駅であり、また今回の第3ステージの中にも明確に位置付けられていますので、具体的な設計を進める中では関係機関とも調整し、防災道の駅にしていきたいと思います。ただ、現段階では調整が終わっていませんので、明確な表現はしておりませんが、当然その方向で行きたいと思います。

会 長 先程、水野副会長からも防災機能の話に関するご意見をいただきました。17ページの暮らしの機能の2つ目として、災害時の安全性の確保、避難施設、防災備蓄倉庫という記載がありますが、これ以上、具体的な表現は難しいでしょうか。地域の方、道路利用者の方という2つの側面があるはずですが、ここについてはこれ以上書かない方がいいですか。それとも、こういった議論を踏まえて、修正の余地はありますか。

事務局 道路管理者からみた防災、それと地域からみた地域の防災拠点という視点、色々あると思います。現段階ではこのような書き方をする中で、今後、具体的な道路管理者協議の中でも決めていきたいと思っておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

会 長 続きまして加藤委員はいかがでしょうか。

加藤委員 23ページと25ページのアクセスのところ伺いたいです。高速のサービスエリアみたいに簡単に車が入れて、また簡単に出入るといった方が集客の面でも良いのかなという気がします。道路事情とか色々ありまして、これは不可能ということだと思えます。25ページの上の図で、左の市道から入ってくる道がありますが、河川を越えて道の駅に入っていきますか。

事務局 入っていただけます。敷地の中に動線をつくって、県道へ抜けるような形を考えています。

加藤委員 青の矢印はバイパスの下をくぐって南側のエリアにも行けるということでしょうか。

事務局 はい、そうです。

加藤委員 あと、25ページの下の方で横断歩道という話がありました。当然、信号があるので横断歩道ができると思います。信号無視するというわけではないですが、人の行き来が危険というか、危ないという感じがしています。南側に高架下を通る地下道はあるのですが、安全性の問題が心配されるので、ご検討いただきたいなと思います。

会長 ありがとうございます。小島委員はいかがでしょうか。

小島委員 前回と比べると非常によくまとめられています。2点だけお伺いしたいのですが、15ページのまちのビジョンの④番のところに、「地域ニーズに応じたまちの新陳代謝が起こり、また、働く場が生まれている」ということが書いてあります。具体的にどのような事かというのを教えてください。もう一点は、恵那市で同時期に開駅する予定で進んでいるとお伺いしていましたが、そちらとの棲み分けのところが、具体的に調整できていれば、お聞かせください。釜戸にもできて、武並の方にもできると、地元の方では一体どうなるのかという不安を持ってみえると聞いておりますので、教えていただきたいと思います。

会長 今いただいた2点について、事務局からお答えできる範囲で、よろしく願いいたします。

事務局 15ページのまちのビジョンにつきましては、基本構想の時に議論した内容を記載しています。住民のたまり場となる地域の暮らしの拠点として、将来的に道の駅ができることによって、①から⑤のビジョンを実現したいという思いになります。暮らしの拠点として目指すべき姿と言いますか、基本構想の時に策定したものを掲載しています。恵那市の話につきましては、今回、瑞浪市の道の駅と武並の道の駅、武並の方でもそういった構想というか考え方があります。近いところに2つありますので、大きな方向性としては、上下分離型の道の駅を目指していくという中で進んでおります。ただ、瑞浪市の道の駅がかなり先行していますので、今後、恵那市と調整する中で、もう少し踏み込んだ検討がなされるのではないかと思います。そういう意味で、17ページの上の方

に書いてある、恵那市との調整において、恵那市との道の駅との関連性の部分について基本計画の内容見直しを行う必要があるかもしれませんので、よろしくお願いたします。

出村委員 基本構想の議論の時のことを思い出すと、ビジョンの④番の新陳代謝が起こるという話は、道の駅が単体で存在するのではなくて、そこがアクティブになることがまちに色々な起業を興す流れを生み出すというところに夢をみていたと思います。今、議論が進んで、更に、釜戸のまちも当然サイトとして重要なのですが、そこにとどまらず、瑞浪市全体とか東濃とかにある、色々な地域資源が編集されて、様々に提示されていくという道の駅の機能を重要視し始めていると思います。先程の東委員と足立委員の提言された話に刺激されて、この期に及んでも基本計画を再考せねばならないのかもしれないと思い始めました。つまり、次の16ページの道の駅のコンセプトのところ、やはり前々から東委員が度々おっしゃっていた、コンセプトが弱くないかという話です。今の小島委員のご発言と同じなのですが、具体性がよく分からないのです。大枠では、これで良いのですが、次に実際にここで仕事をされる方が基本計画として、ちゃんと頭に据えられる文言がここにあるべきではないかと思ったわけです。例えば、イメージとしては、この場所は地域資源が溢れているエリアのど真ん中に位置している特性があって、地域資源を更に編集して、良い料理を出し続けるような、いわゆる「地域ソムリエ」のようなコンセプトがここに備わった方が、もしかしたら全体としては良いのかなと思いました。一方で、施設だけではなく、道の駅全体をみると、公園のような広がりをもっていて、要するに瑞浪の場所において、すごく素敵な緑地を提供するという大きなビジョンもあります。そういうところも踏まえて、本当は今一歩ここにグッとくるキャッチフレーズが入るべきではないかというように感じています。

会 長 基本計画として一旦成立した後に、更にもっと尖ったコンセプトを出していくというステージがあっても構わないのではないかなと思います。

出村委員 出し方の考え方として、「まちとともに育つ道の駅」は決して間違っていないので、まずは頭に据えたいと思います。そこを固めるキャッチフレーズは、この後、出てこればと良いと思います。

会 長 以前は良いコンセプトであると思っていたのですが、いよいよ具体化していく段階になると私も同感です。ただ、これは基本構想から継承したコンセプト

でもあるので、この場でインスタントに変えられるものでもないと感じます。

会 長 引き続きまして、遠藤委員お願いします。

遠藤委員 12ページの、「あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに」を踏まえて、瑞浪には優れた資源とか各地には優れた文化がありますので、その資源とか、その文化に携わる人たちを、この場を使ってPRできるような場になると凄く良いなと思います。19ページの施設のイメージのところ、イメージの部分非常に大切になると思うので、道の駅をもっと問い詰めて進めていって欲しいなと思います。青年会議所で道の駅について話す機会があったので、その時に話していた意見を話したいと思います。2点ありまして、まちとともに育つという部分が、どのように叶えられていくのかストーリー的などころを教えて欲しいという点と、そのストーリーを進めていく為に、収支が赤字にならずに運営されることが前提条件になると思います。導入施設を全て盛り込んだときに、維持管理費用がいくらで、見込まれる来場者数がどれくらいか、来場者数から考える売り上げはどのように見積られるのか、最終的に道の駅は市がお金を出し続けていくのかなどが、計画を通じて市民に伝えることができるか良いと思います。お答えいただける範囲で構いませんので教えていただけないでしょうか。

事務局 「まちとともに育つ道の駅」というコンセプトは色々な見方があると思います。全国的に道の駅の状況を見た時に、実際に運営が成り立っていない所もいくつかあります。最初の段階で大きく整備して、後に赤字を大きく出さないというような方向性が最初にありました。そういう意味では、瑞浪市の道の駅は、最初は、ひょっとしたら小さな規模になってくるかもしれませんが、地域のニーズとか、運営をしながら大きく育てていきたいというコンセプトもあって、「まちとともに育つ道の駅」という考え方になっています。もう一つは、道の駅の運営については、完全な民営化というのはなかなか難しいと思っています。やはり公設で整備して、できる限り運営主体が、管理費を市から貰わなくても運営をしていけるようにしていきたいと思っています。今後のサウンディング調査の中で、どれだけ採算性が取れるのかなども民間事業者の意見も伺いながら進めていきたいと思っています。赤字という話については、十分にサウンディング調査をする中で精査をしながら、そうならないように民間事業者を探し出すといたらおかしいですけど、対話を通じて決めていきたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

会 長 先程、遠藤委員のお話を聞いて、東委員からの話にも共通しますが、地域資源といったときに人も資源です。道の駅の講演会に鹿児島から来ていただいた石川さんも、この地域におられる面白い方とか、尖っている方、光っている方というのも、やはりこの地域の瑞浪の資源だと思います。そういった方々が活躍できるような場にしていくというのは、非常に重要な視点だと思います。山田委員お願いします。

山田委員 14ページの基本構想の1つの検討内容のところの、農産物直売所の書き方と、18ページの市内各地域の個性の発揮というところと、19ページの集客力を高める場というところの関連になります。他施設との連携とありますが、なかなか連携というのは難しいところがあると思います。先程の話の中にもありましたが、個性というところをもう少し増やして施設の整備をしていった方が良いと思います。集客のところ分散してしまっていて、それぞれが赤字になってしまっても困りますので、そういった点をもう少し考えていただけるとありがたいなと思います。

会 長 只今の意見に関して事務局からお答えがあればよろしくお願いします。

事 務 局 繰り返しになりますが、サウンディング調査を進める中で有能な民間事業者を探していきたいと思います。もう一つは、先程説明がしきれていませんでしたが、瑞浪市の道の駅は広大な敷地を確保します。そういう状況の中で、北側エリアに主体となる施設を配置することになっています。南側エリアについては、23ページにイメージ図がありますが、チャレンジ広場という表現をして将来の発展性が確保できるようにしています。ここに色々な思いのある地域の方々が、何らかの形で参画できるような余地も残しているということです。「まちとともに育つ道の駅」ということで、出来上がった時が完成形ではなくて、どんどん発展していきたいというイメージの道の駅にしていきたいと思っています。

会 長 今、皆様から一通りご意見をいただきましたが、追加でご意見ご質問等あれば、よろしくお願いします。

副 会 長 サウンディング調査を行っていくという話ですが、最初の説明の時は、この基本計画自体は、その年その年で色々な物ができてくるから見直しとか変わっていきます、固定ではないですという話だったので、もっとここの中が充実していけばいいなと思っています。その中で、今の内容というのは、釜戸、大

湫が中心的なものになっていますが、日吉でも五月橋が架かれれば八百津と繋がる、そうすると中山道がもっと生きてきます。そういったところを加えてサウンディング調査を行っていただけると、もっと事業者の思いが膨らんでくるのかなと思います。もう一つ、市内には青年会議所や商工会議所などがあります。市内にも意欲のある事業者がいると思うので、そういった人をもっと入れた方が良いのではと思っています。その点も、次の段階においては、そういった部分も是非増やしていただけるとありがたいと思います。

会 長 今、水野副会長からいただいた意見で、まだ、未確定な部分が残っている計画となっているので、それがはっきりしてきた時に、アップデートして具体化されたものについては、ある程度書き加えて、計画の修正版や改訂版として出していく必要があるのかなと思っています。特に、道路や運営事業者の関係、河川との関係など、色々な不確実性を残しておりますが、最後のスケジュール表を見ると、令和9年は実は遠いようで、そんなに遠くない中で、色々なものが具体化されていきますので、市民の方々に、具体化されていく状況を、ある程度まとまってオープンにするということも含めて、基本計画について、アップデートはいずれ必要になってくるのではないのかなと考えました。一通り意見を出していただく中で、今後議論すべき論点も抽出されていると思います。事務局におかれましては、今後議論すべき課題を、今日の検討会を通じて整理して、今後の検討の場を設けていただきたいと思います。本日、オブザーバーとしまして国土交通省多治見砂防国道事務所様、岐阜県から東濃県事務所様が来られています。アドバイザーの方から、もし今日の全体を通して、コメントいただくことがあれば、お願いしたいと思います。尾関様いかがでしょうか。

尾関アドバイザー 前回は参加させていただきまして、その時にも正に今日の議論にありました、釜戸道の駅じゃないと、瑞浪引いては東濃地域という話題になりましたけれども、是非ですね、この計画は計画として、今後、よりスケジュールが進みまして具体化していく中で、この文言通り実現すべく、全体を見据えた整備が進むことを祈っています。特に東濃3市、多治見、土岐、瑞浪を見た時に、道の駅があるのは土岐に2箇所ございますが、国道19号からは、ちょっと奥に入ったところにあります。ここは、正に19号バイパスのメインの通りとなりまして、そういう面では集客の面でも、かなり交通量も多く、今、東濃の方でも道の駅連合が組織されており、ゆくゆくはそういった中で、核となる施設になる、そういったポテンシャルは十分にあるかと思っておりますので、是非ですね、こういった会を通じて、今後、住民の皆さま、そういったご意見を反映した形で、整理を進めていただければと思います。よろしく願いいたします。

会 長 ありがとうございます。オブザーバーで参加していただいている、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所様から、もしコメントいただくことがあれば、よろしく願いいたします。

丸山オブザーバー 私共は瑞浪恵那道路を整備しております、その関係で、いくつか未だ具体的に書けない部分というのが、やはり、未だうちの方の事業も進んでいないところもありますので、そこら辺については、ある程度進んだ段階で、瑞浪市さんとまた色々調整していきたいと思っております。一体型の整備の話も、当然我々の道路の横にできるという話であると思っておりますので、国としては当然しっかりと支援とか協力していくというのは勿論だと思いますし、また、道の駅は国の施策としてやっておりますので、その辺の情報も瑞浪市さんと共有しながらやっていきたいと思っておりますので、引き続き、よろしく願いいたします。

会 長 ありがとうございます。今日は、基本計画（案）について、多くのご意見をいただきました。先程も申し上げましたが、今後議論する論点、特に運営事業者については、この後、出村先生から新たに議論されている内容についてお話があります。少し時間が残ると思っておりますので、運営事業者をどのように考えるのかをフリーディスカッションしたいと思います。基本計画に関する議事については、いただいた意見を事務局の方で修正等をした上で、会長である私の方で判断すべき点があれば、委員の皆さまの懸念が取り除かれる形で最終版に仕上げたいと思っております。基本計画に関する議事としましては、閉じさせていただきます。本日の議事は以上となります。

4. 報告事項

- ・ 出村先生による令和4年度 岐阜大学等との共同研究についての報告

5. その他

6. 閉会

以上